

「中小企業の活性化と地域金融機関の役割」

小野 隆（青い森信用金庫理事長、東北地区信用金庫協会会長）

要旨

信用金庫は地域金融機関として、地域の歴史・経済・産業と結びついた活動を展開し、「中小企業の支援と地域経済の活性化」に貢献することを使命として地域社会との関わりを重視してきた。

そのような中であって、一信用金庫だけでは解決できない課題に対応するため、平成17年10月に青森県信用金庫協会が中心となり、県内信用金庫がまとまり会員組織の産学官連携活動組織「コラボ産学官青森支部」（現支部長小野隆：青い森信用金庫理事長、本部：東京都）を設立した。活動内容は、中小企業経営力向上研修会の開催と経営課題解決のための専門家による企業訪問である。

近年、地域金融機関の役割として、中小企業支援のためのコンサルティング能力が問われてきている。当金庫でも、平成20年度から始まった経済産業省委託「地域力連携拠点」事業により、各支援機関との連携が強まり、中小企業の課題解決支援体制が格段に強化された。特に、①ネットワーク力②スピード③情報発信④産学官連携の4項目に重点を置き、中小企業活性化を推進してきた。

①については、課題解決支援策としての青森方式の確立である。青森方式を簡単に言うと、まず研修会に参加した企業経営者の会話や情報を基に、開発したい新商品、新サービスのアイデアを具体化するためにコーディネーターが事務所、工場に出向き、経営者からじっくり話を聞き、継続的支援のための訪問を積み重ねるというものである。その際、必要に応じ課題解決のため各支援機関とのネットワークにより適任者を派遣してもらい、支援の実効性を高めるようにしている。新商品、新サービス開発から売上増加までワンストップサービスの提供で成果を上げた。特に地方であって、販路開拓、販路拡大は死活問題である。販路開拓等支援の専門スタッフを充実させた結果、大きな成果が得られたことを強調したい。

②活性化策の要諦はスピードである。そのため支援スタッフは「出来ることをする。すぐにする。積み重ねる」をモットーに行動している。

③については、中小企業経営者への情報提供とマスコミを利用した事業実施活動の周知がある。情報提供の主な場は研修会である。そのテーマは「企業の明日の売上を上げる支援」である。売上を上げるための分析から自社及び商品の強みを知るような内容としている。多忙な経営者が毎回研修会へ参加するのは、既存商品だけでは売上と利益の維持は困難で、「何かしなければならない」との思いがあり、その解決の糸口を研修会の中に見つけたからなのではないだろうか。一方、新商品やマッチング情報等の活動内容については、テレビ、新聞等を積極的に活用し広く周知している。

④については、中小企業活性化全般で連携しているが、特に大学とは共同研究だけではなく、「地域貢献」をキーワードとした新分野の企業支援連携が図られている。

略歴

青森県立八戸高等学校卒、同年八戸信用金庫入庫。支店長、業務部長、本店営業部長を経て、八戸信用金庫常勤理事に就任。その後、常務理事、専務理事を経て2004年、八戸信用金庫理事長に就任、現在に至る。2006年、青森県信用金庫協会会長に就任。2010年、東北地区信用金庫協会会長に就任。